本を選ぶ

高校図書館版

NO. 12　1991年(平成3年)11月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL.03-3235-6168

ぶっく・えんど

時代が変っても

5月頃のある日のこと。3階の司書室で、本の受付作業をする私の耳に、郭公の鳴き声が聞えてきた。いやにはっきり、カッコウーと鳴くので隣の席の女教師に「あれは、もしかしたら人間が真似して鳴いているのでしょうか」ときくと「まさか、本物の郭公でしょう」と微苦笑して答えてくれた。

県立N女子高校は、市内校ではあるが、幾分郊外にあるため、まだまだ豊かな自然が残されている。夏休みに入ったある日は、正面玄関の高い木のてっぺんに巣をつくっている野鳥の雛が、司書室へよたよたと飛び込み、机の上へぺたんと座り込んでしまった。私は1階へ降りて行き、雛を小枝に止らせ、「早くお母さんを呼びなさい」と頭をなでて、よく言い聞かせて司書室へ戻った。またある時は、立派なおにやんまが、廊下をゆうゆうと飛んでいた。

本校の女子生徒は、このおおらかな自然の懐に抱かれて、そのせいかどうか、伸びやかで、素直で、たおやかである。体型も同様、スラリとして色白の子が多い。40歳を越えて数年になる私は、女生徒を「ああ、美しい。人の一生のうちで最も若々しい時期にある、この子どもたちの顔は自然が産みだす美しさで輝き、眩しいくらいだ」と若干の羨望をまじえて眺め、「さて、それであればこそ、この時期に良書を沢山読んでもらわねば」と思う。生きてきた過去よりも、はるかに長い未来と柔軟な頭脳を持つ生徒たちに、読書から多くのことを学びとり、将来の心の糧としてほしいと願わずにはいられない。

私は人生の先輩として、図書室へきた生徒へさまざまな事を言う。そして話をしたあとに、その生徒の読書歴と雰囲気に合わせ、この本を読んでみたら、とすすめる。すると嬉しいことに、大抵の生徒が借りていってくれる。読了してくれるかどうかわからぬとしても、一冊の本が、その生徒と図書室を結ぶきずなとなり、さらに、その生徒を読書の世界へいざなうきっかけとなってくれれば司書として、これほど嬉しいことはない。

私は毎年、1歳年を取る。けれども入学してくる子どもたちの年齢は毎年15歳である。学校は、幾年歴史を重ねようと、在籍している子どもたちの年齢は常に一定に保たれている。司書になりたての頃、私は生徒と同じ年頃であった。今は親子ほどの違いがある。退職する頃は孫ほどの違いになっていよう。生徒の気質も時代の流れに応じて変化してゆくことであろうし、「読書」という形態自体が、今の科学技術の進歩で、どう変化してゆくか見当もつかない。

しかし私は、時代がどう変っていこうとも、先人が残してくれた名作、良書は、いつにあっても人々の心に生きる有様を知らしめてくれるのではないかと思う。それゆえ私は、図書室を訪れてくれる生徒の一人一人が良書と巡り会い、そこから多くの事を学び取ってくれるよう、司書として努力してゆかなければと思う。生徒の倍以上も生きてきた年輪の重みを充分に生かしつつ。

（藤井　澄：県立高等学校司書）

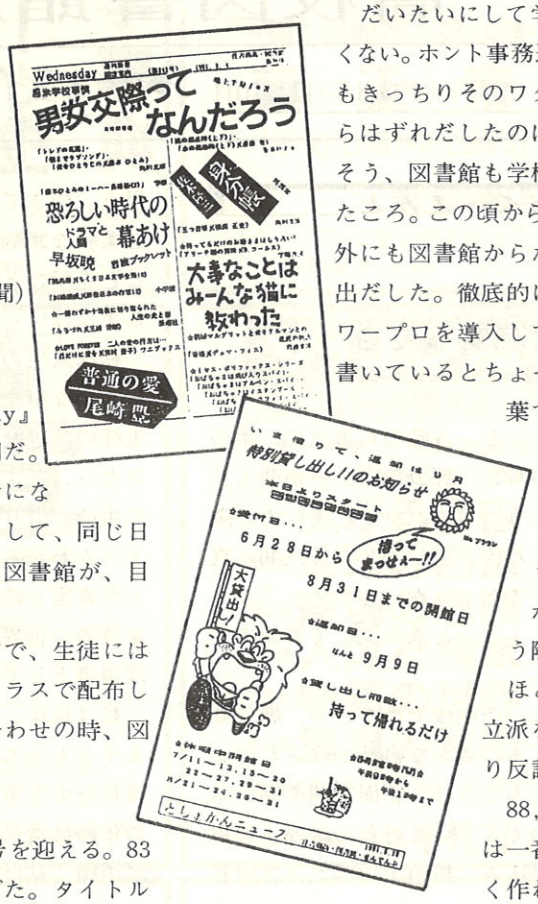
住商図書館　秋の巻

井　上　明

住商・図書館を生徒・職員に印象づけるものとしてたくさんの印刷物がある。現在、

- Wednesday（週刊新着図書案内）
- Friday（特集コーナーびら）
- 図書館ニュース（お知らせ）
- 図書館通信（教職員向けお知らせ）
- 図書館だより（いわゆる図書館報）
- Library News（図書委員だより）
- 月刊図書館だより
  （図書委員による図書館全般の新聞）
- わたしたちがすすめる新しい本
  （図書委員による新刊図書案内）

などが発行されている。『Wednesday』以外、発行日、発行回数など不定期だ。



全体として、年間60～70回の発行になる。一学期などは週二～三回。時として、同じ日に2つということもある。いやでも図書館が、目につく。

ほとんどが生徒・職員全員に配布で、生徒には図書委員が図書館へ取りに来て、クラスで配布してくれ、職員には、朝の職員打ち合わせの時、図書館部の教員か私が配布している。

『Wednesday』が、まもなく250号を迎える。83年6月からの発行だから、8年がすぎた。タイトルを発行曜日にちなんで、『Wednesday』としたのは88年頃からで、当初は『新着図書案内』だった。

「どんな本が入ってきているのか、わからない」「図書館の本が偏っている」という職員のご批判にお応えして、図書館に入ってきた本を全て、紹介しだしたのが始まりである。

できるだけ早く、そして継続できるものを、ということで「書名」「著者名」「発行所」「分類」だけのリストである。発行していくなかで「分類」が削られ、「発行所」が削られ、とさらにシンプルに。

大きさはB5版を原則としている。片手で持って、さっと目を通せるものということで。最初は横版だったが、87年度からワープロ導入を機に、縦版に変えた。

『新着図書案内』から『Wednesday』へ変化していく道筋は、住商図書館の変容そのもの。

だいたいにして学校の文書は、面白くない。ホント事務連絡。『Wednesday』もきっちりそのワク内だった。ワクからはずれだしたのは86年度あたりか。そう、図書館も学校の中で浮き？だしたころ。この頃から『Wednesday』以外にも図書館からたくさんの印刷物が出だした。徹底的に変わり出したのはワープロを導入してから。自分の手で書いているとちょっとテレるような言葉でも、気にせず打ちだされてくる。本当に機械はこわい。「ああいう言葉を使うから、生徒の言葉が乱れるんだ」という陰の批判にも「それほど影響力があるなら立派なもの」と、やんわり反論。

88,9年頃が自分としては一番のっていて、楽しく作れた時代か。

「どんな本か、わかりにくいから内容紹介が欲しい」との職員からのご意見。シンプルだけが取り得の『Wednesday』。どうしようかと悩んだが、貴重なご意見。昨年から一行紹介を入れだした。なかなかこれが難しく、ほとんど「帯」とか、「まえがき」からいただいている。また他校から「発行所を入れて欲しい」との要望。これも復活した。

長年やっていて「無駄やないか」とか「何か他の方法で」と思うこともあるが、配っている時、「プッ！」と笑ってくれる教師がいたり、『Wednesday』の書名欄を赤鉛筆で囲んであるのを教師の机の上で見たり、生徒が『Wednesday』を持って「この本、ある？」と駆け込んで来るのをみると、なか

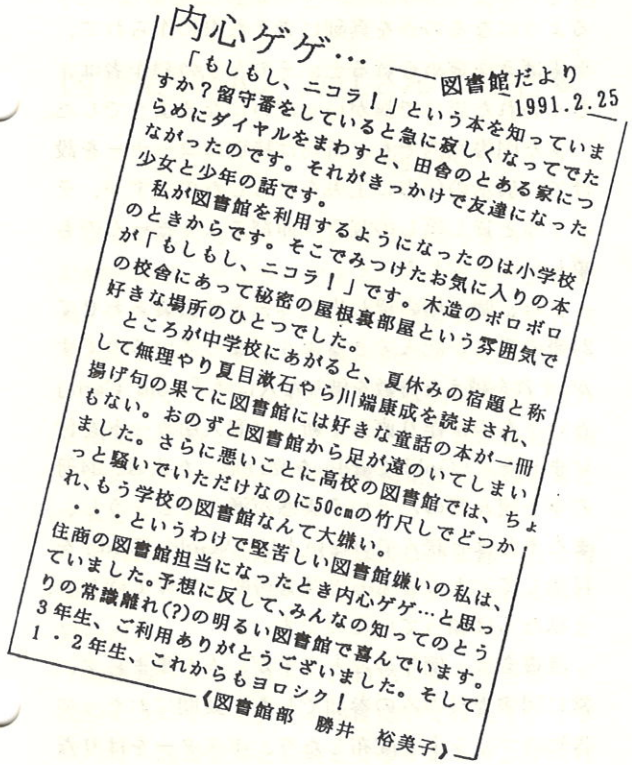
なかやめられない。

また、日頃あまり話をしない先生との会話のいいキッカケにもなっている。

「紙食い虫でえらいすんまへん」とある宴席で言ったとき、

「役にたっているものを、しょうしょう使こうても、ムダとはいいませんのや」

と言った、ある事務長の言葉をハゲミに、まあ、ぼつぼつやってます。



内心ゲゲ…

図書館だより

1991.2.25

「もしもし、ニコラ！」という本を知っていますか？留守番をしていると急に寂しくなってでたらめにダイヤルをまわすと、田舎のとある家につながったのです。それがきっかけで友達になった少女と少年の話です。

私が図書館を利用するようになったのは小学校のときからです。そこでみつけたお気に入りの本が「もしもし、ニコラ！」です。木造のボロボロの校舎にあって秘密の屋根裏部屋という雰囲気で好きな場所のひとつでした。

ところが中学校にあがると、夏休みの宿題と称して無理やり夏目漱石や川端康成を読まされ、揚げ句の果てに図書館には好きな童話の本が一冊もない。おのずと図書館から足が遠のいてしまいました。さらに悪いことに高校の図書館では、ちょっと騒いでいただけなのに50cmの竹尺しでどつかれ、もう学校の図書館なんて大嫌い。

・・・というわけで堅苦しい図書館嫌いの私は、住商の図書館担当になったとき内心ゲゲ…と思っていました。予想に反して、みんなの知ってのとうりの常識離れ(?)の明るい図書館で喜んでいます。3年生、ご利用ありがとうございました。そして1・2年生、これからもヨロシク！

《図書館部　勝井　裕美子》

さて、今、住商図書館は。

今年の一年生は、メチャ元気である。

「一年生にちょっと力を」と思っている間もなく、４月が始まると同時に、どんどん利用しだしたのだ。

一年生の貸し出し数は７月末で、すでに3000冊（全体で約8000冊）を越えた。

人なつっこさといい、利用の仕方といい、図書館に関しては既に三年生の雰囲気をそなえている。

「オリエンテーションはどうしてますか？」と聞かれることがあるが、住商では一年生初めの全体の基礎教育のなかで10分か15分をもらって？主任がドクショノイギについて語るだけ。

配布資料も、今年は、B４用紙の裏表１枚。表は比較的新しい10冊の本の表紙と利用法を。裏には『図書館だより』に載せた数人の卒業生の＜私と住商図書館＞。クラス毎、図書館に連れてきて、きちっとオリエンテーションをやられている他校の状況を聞くと恥ずかしくなるほどの手抜きである。

「今年の一年はよう来るなぁ。なんでやろ？」と、ある先生に聞くと、

「中学校の図書館、ようなったんちゃう」と一言。「ふーん、そうやろか」。

いまだによくわからないが、ひとつ、住商図書館をよく知った担任がその学年団にいるかどうかということも大きいような気がする。

「５限目、うちのクラス自習なんですけど、図書館使わせてもらっていいですか」と、今年初めて１年の担任になったＫ先生。入学して10日を過ぎたころの話。

「どうぞ、どうぞ」ということで、図書館で自習。

「ハイ。みんな、すわって、すわって。それではこれから、楽しい読書の仕方を勉強します」

生徒たちは「エー！」

カウンターにいた私は一瞬、「ウン？」。

どうなるのかみていると、

「ハイ、それではみんな、好きな本を読みましょう」

「ウァー！」と、生徒たち。みんなてんでばらばらにあちこちの本棚へ。

Ｋ先生、こちらをみながら、ニヤリ。

「ウン、ウン。なかなかやるわい」と思う。

この先生、去年わが校に入ってきて、１年間一緒に図書館部ですごした、うら若き女性。読書をなんであるかを心得ておられる。

もう一人Ｉ先生。Ｋ先生と同年。同じ苗字ということで、なんとなく図書館ゴロになり、常時、図書館に来られている。

「今日の『Wednesday』ちゃんと配って、ついでに図書館のＰＲしときました」との報告。

この二人のクラスの利用が格段に多いのは、言うまでのことはないのかもしれない。

（いのうえ あきら：大阪市立住吉商業高等学校司書）

図書委員OG・由紀子さんの場合●

出山由紀子

考えてみると、もの心ついてからというもの、私のそばにはいつも本があったように思います。

共働きの忙しい両親は、小学校にあがった私にいまにして思えばかなり立派な、ハードカバー装丁の『世界名作全集』を買いそろえてくれました。

留守番をしている、ということも忘れてしまうくらいページの中の世界にのめりこんでいた自分の、ワクワクと心躍る気持を、私は今もおぼえています。

それ以来、現在に至るまで、本を手に取らずに過ごした日は、ほとんどないといっていいと思います。

私にとって読書というのは、食事や睡眠と同様、生活の自然な習慣の一つなのです。

小学校、中学校、高校と図書委員をしたのも、できる限り多くの時間、本に触れていたかったせいでした。

図書館、というのはどこでもそうですが、独得の雰囲気があって静けさのせいもあるのかも知れませんが、入りにくいという声が意外に多いのです。しかし、私にとっては教室よりもどこよりも心安らぎ、落ち着ける場所でした。ですから思うのですが、その図書館が入りやすいか入りにくいかというのは、多分にその人の心持ち次第で左右されるのではないでしょうか。

日頃から本に接し、書に親しんでいれば、これほど実用的で、有益で、充実した空間はないはずです。

それを「近寄りがたい」といった先入観だけで図書館から遠ざかり、結果として読書からも遠ざかってしまうというのでは、あまりにもったいなく、寂しいことのように思えるのです。

勿論、利用しやすい図書館づくりへの努力は、決して怠ってはならないと思います。誰でもがいつでも気軽に、気持よく図書館を利用できるように、全国の図書委員のみなさん、司書の先生がたはきっと頑張っておられることでしょう。

私は高校では、二、三年の２年間、図書委員をつとめたのですが、やはり小学校、中学校のそれとはまったく違って活動に活気があることに最初のうちは驚いてしまいました。

委員は広報班や読書会班など、専門的にその仕事を行う班に数名ずつ分れ、自分たちで企画し実行します。館報『LIBRARY NEWS』を発行する広報班は特に大変な部署で、班員は内容を充実させようとするあまり、ついつい原稿が遅れがちになり、いつも息を切らせている有様でした。生徒に配ったり学校の壁に掲示したりする新刊案内は、どうすれば全校生徒に図書館に足を運んでもらえるようになるのかを真剣に考えた末に作られて、出来ばえを褒められると、そのときの制作者は、むくわれた思いで胸がいっぱいになるようでした。

また図書館内でも、新刊は特別にコーナーを設けて、展示の仕方に工夫をこらしたのですが、そうすると貸し出しの割合が伸びるようだったのも嬉しいことでした。

また、個人用の貸し出しカードは表裏あわせて24冊の書名が記入できるようになっているのですが、それを越えた冊数を借りた人には「Gold Card」というものに作り直して新しい個人用カードを付けました。「Gold Card」を受け取った人は、24冊の本を読んだのだという実感が湧くでしょうし、またそれほど読んでいない人は、「Gold Card」を目指して、もっともっと読書の幅を広げて欲しい、と私たちは願っていたのです。

読書会は、例年のことですが、人が集まらず、常に図書委員のみの参加でした。長期にわたって告知のプリントを配布したり、ポスターをはりだして宣伝したのですが、こういう結果になってしまって残念です。

しかし、私たちが最も長期の準備時間をもうけ、最も熱を入れるイベント・文化祭での古本市については、満足な成果が得られました。

私は文化祭では部活の方に忙しく、あまりタッチできなかったのですが、前日は遅くまで居残り、当日はまだ夜もあけぬうちから家を出て準備に駆けまわる委員の皆の姿を見ては、本当に頭が下がる思いでした。そして、皆の努力のかいはきっとあったと思います。

さて、私は４月から大学に進み、国文学部の学生としてレポートに追われる日々をおくっています。大学の図書館は専門書ばかりで、資料を求め

る以外に足を向けることは滅多になくなってしまいました。小、中、高校と慣れ親しんできた過去の図書館が、とても懐かしく思い出されます。またこうなって改めて、やっぱり高校時代、図書館に通いつめて良かったと思うのです。

今、あまり学校図書館を利用していないという人は、絶対に利用する習慣をつけてほしいと思います。図書館の本は必ず読む者に新しい何かを与えてくれるのですから。

(でやま ゆきこ:福岡県立戸畑高校OG/大学一年生)

図書委員OG・芳江さんの場合●

河内芳江

図書委員になったきっかけは、はっきりいって結構不純だったように思える。たまたま「図書委員」という枠があいていて、「図書委員ならのん気そうでいいか」と本当に軽い気持で入ったのだ。

ところが(こんな事を言っては失礼だが)意外と活発に活動していて、とりあえず私は毎週火曜日の貸し出し当番と図書館報編集委員の役を果たすことになる。

それから毎週火曜日の放課後は図書館へ行く習慣ができた。図書館の利用者がずいぶんいる事に驚いた。

毎週通っているうちに、自然に私も本を借りて読むようになった。元々本は嫌いではなく、小学校の時も図書委員を経験した事があるが、中学校に入ってからはあまり読まなくなってしまった。だから、高校で図書委員になったのはとても幸運だったようだ。そのために、忘れかけていた読書の習慣を取り戻せたといっても過言ではないと思う。

図書委員になって良かったことは他にもあった。まず、私がカウンターにいる事を知って、友だちがたくさん図書室を利用してくれるようになった事。私もそうだったが、西女の図書館は校舎のはずれの方にあって何となく入りにくい雰囲気があった。でも、そこに知っている人がいるだけで気楽に入れるのではないだろうか。おかげで、本について話す事もあったし、受験期には私のクラスの人がかなり図書館を利用していた。

さて、11月後半位になるといよいよ図書館報の制作に取りかかる。私は、「館報」という名前も聞いた事もないし、ましてどのような物かもわからないのに、編集委員長に選ばれてしまった。本当に館報が作れるか不安だったが、楽天的な性格も手伝ってか「何とかなるさ」と、とりあえずやることにした。

仕事内容として、先生や生徒に原稿を依頼、回収する事があった。それぞれ、本について書いていただいたりしたわけだが、原稿を求めて学校中をかけめぐった。さらに、図書についてのアンケートを全校にとり、集計をした。この辺までは、前年までとほとんど同じだったので、私達は私達なりに新しい企画を考え、学校行事で見た「ファミリー」という映画の感想やおすすめの映画紹介をいれたりした。

この「館報」の仕事は、案外ちまちまと地味な作業だった。ひととおりでき上がった原稿を冬休み前までに印刷業の方に渡して印刷する、となっていたので、12月は忙しかったような気がする。表紙決めなどで手こずり、終業式の日に残って仕事をしたのが印象的だった。

三学期が始まってからも、誤字を訂正したり、各クラス分に渡すために数えてわけたりと、最終的に仕事が終わったのは1月末だった。

館報を無事に作り上げる事ができたのは、何よりも皆が協力的だったからだ。原稿も快くひきうけていただいたし、他の編集委員の人もきちんと自分の果たすべき仕事をしてくれた。何よりも司書の先生にはいろいろとアドバイスをしていただき本当に感謝・感謝である。

三年生になっても、また図書委員になったのだが、さすがに三年生となると忙しく、仕事らしい仕事をしないで終わってしまったような気がする。

卒業して、今は看護学校に通っているが、図書館と縁が薄くなってしまった。

それでも、高校時代にしっかりと読書の習慣をつけたせいか、本は今でもある程度は読んでいる。

本は、視界を広くするし、得することが山程ある。韋編三絶、とまではいわないが、どんどん読んでたくさん得して欲しい、と私は声を大にして後輩達に言いたい。(かわうち よしえ:福島県立西女子高等学校OG/県立医大附属看護学校一年生)

図書館地図お見せします

稲毛裕子

S農業高校の図書館は管理棟2階の端にあります。周辺は視聴覚教室とその準備室、社会科準備室、美術教室（本来は社会科教室）、コンピューター教室等、生徒がよく足を運ぶ一角となっており、教室棟とは1・2階の中央廊下で繋がっています。

南側は全面窓。体育館の屋根の照り返しもあって気温が35度にまで達する夏季を除くと、窓辺は日だまりにたむろする男子生徒たちで満席となります。

着任した4年前からマンガを初め8つのテーマ図書コーナーを設けていますが、貸出の集中する昼休みはマンガと文庫のコーナー、それにスポーツ新聞がなんといっても人気を呼んでいます。ストーリーマンガの神様といわれる手塚治虫のことは、やはり無視するわけにはいきません。『ブッダ』『アドルフに告ぐ』『火の鳥』『ブラックジャック』を揃えましたが、『ブラックジャック』は瞬く間に6冊消え失せてしまいました。『はだしのゲン』もよく借りられています。

このマンガコーナー、現在は114冊となっていますが、少ない予算の中では生徒たちのリクエストに充分応えられず、選書基準を設けても、保留が溜まっていく一方なのです。

スポーツ新聞もリクエストに応える形で「A新聞社なら」ということが係で承認され、購入決定となりました。

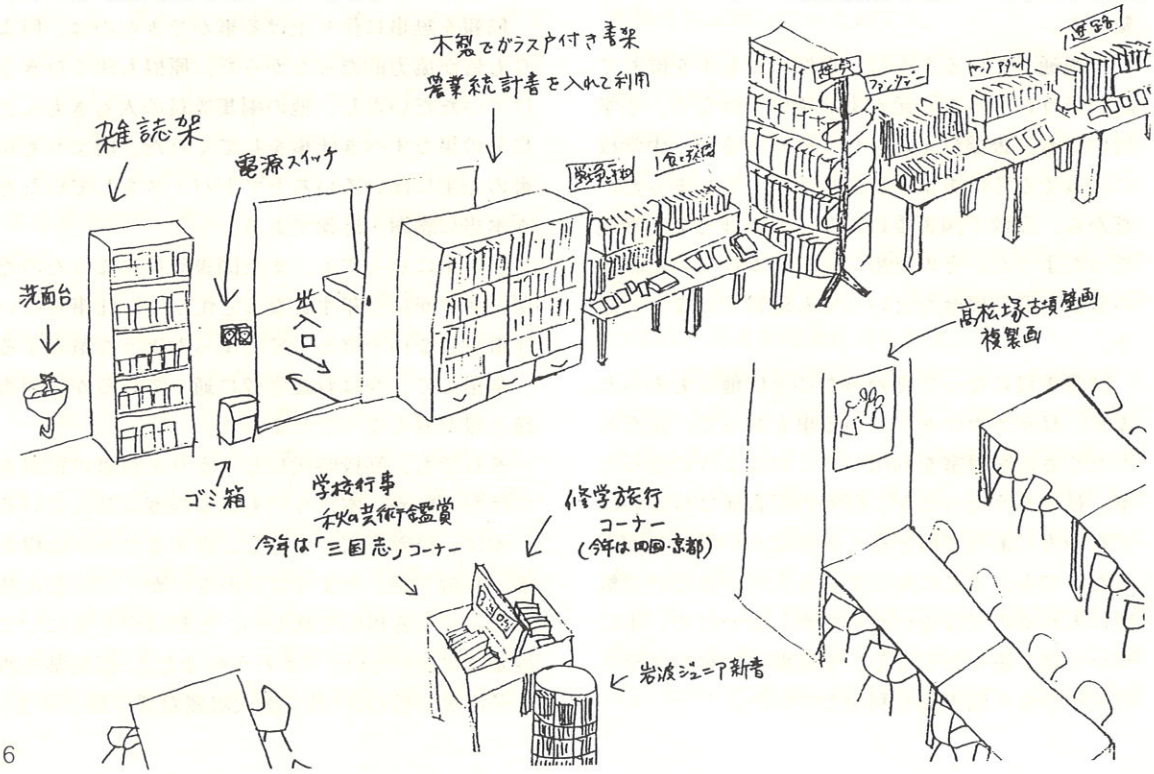
また、文庫用書架を昨年購入したことで、ようやく生徒のリクエストにも対応できる条件が一つ整いました。リクエストは断然文庫が多いです。

若い感性にこれだけは訴えたいと思いつつ設けた＜戦争と平和＞＜食と環境＞＜ファンタジー・メルヘン＞＜ヤングアダルト＞＜進路＞等は、書架不足のために現在は壁面に机を5個並べたに過ぎないものです。

まず、それぞれ蔵書の中から拾い集めることから始めました。

＜戦争と平和＞――平和教育、戦争に関する図書はどこの学校図書館でも、随分揃っているものですが、特に自衛隊に関しては手薄であることが分りました。進路の問題も絡めて「自衛隊の本はないのか」という問い合せが毎年あるのです。また、写真集『ベトナム戦争』、ブリッグスの『風が吹くとき』がいつの間にか消失しました。

このコーナーの貸出数は少ないのですが、生徒



たちはよく見ているので、写真集等、ビジュアルなものをもう少し増やしたいところです。

＜食と環境＞――以前は＜公害＞としていましたが、農業高校ではこの方が良いと思い変更しました。農文協のテーマリストのタイトルをそのまま頂いたものです。土づくり、水田や森林の効用等、農業と関わる分野にまで内容が広がりました。

オリエンテーションでは「日本中の誰もが、安全でおいしい食べ物を望んでいる」ということを強調しています。

＜ファンタジー・メルヘン＞――ここはＳＦファンタジーではなく、本来の意味でのファンタジーに徹しています。未だ少ないのですが、絵本もこのコーナーに集めています。

＜ヤングアダルト＞――一番関心のある心と身体に関するものだけにしています。恋愛、性、家族、友人、たばこ、学校、人生。

生活指導を受けた生徒の何人かは、読書課題を探しに図書館にやって来ます。自由に選ばせるのですが、大概はここから選んでいきます。

＜進路＞――就職試験問題集、専門学校・大学・短大の案内雑誌、なるにはブックス等。

「面接ビデオを置いて自由に見せたら良いのに」という声が教師から上がるようになりました。

この他＜古典＞＜郷土資料＞もコーナーとして独立させたのですが、ここでも書架不足のために＜古典＞はともかく、＜郷土資料＞は書架上での配架整理が不可能な状態です。

「マンガ」の書架でさえ、図書館係だったＹ教師の好意で譲り受けたものです。書架の更新・増設は、今後の大きな課題なのです。

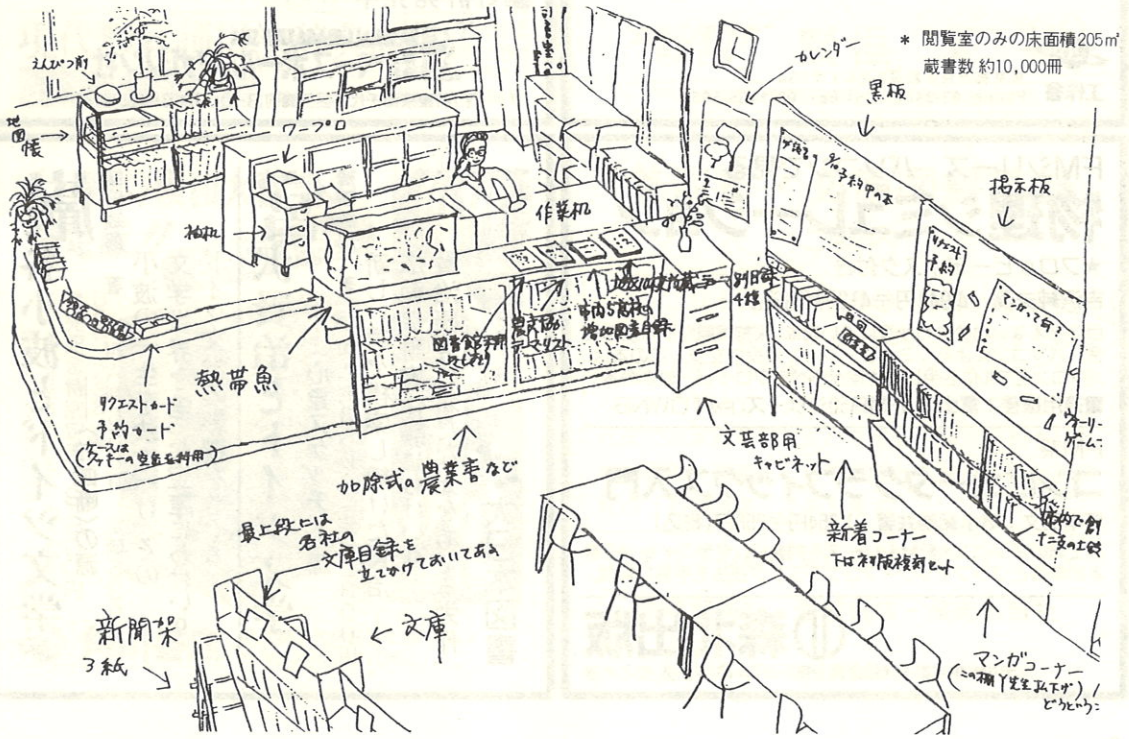
館内表示にはもう少し工夫が必要ですが、窓辺にグリーンを飾ったり、生徒の発案でカウンター横に熱帯魚を登場させたり、市内で創られている干支の土鈴やウォーリーの切り絵を飾ったり、社会科から提供された原爆瓦を展示したりと、館内のムード作りは生徒たちの反応が実感できる楽しい仕事となっています。

司書室が狭く、常駐の係職員の机とソファー、事務棚３台の他は何も置けません。カウンター内に作業台を設置したことで、終日閉館としても生徒や職員の出入りに目が届くようになりました。

司書室のソファーは、昼休み、放課後とも暫し生徒と職員の談笑の場となります。職員が留守の時は入室禁止としているのですが、何時の間にやらソファーで新聞を広げていたり…。

こんなとき「けじめを付けようぜ」等と何故か男ことばを投げかけてしまうところが農業高校なのです。

（いなげ ゆうこ：新潟県立Ｓ農業高校）



P. J. ネルー
父が子に語る世界歴史
全6巻

1930年，イギリス統治下のインドでは，ガンディーやネルーが解放への闘争を闘っていた．獄中から，14歳の娘インディラに宛てた手紙にはアジアから視た世界史が繰りひろげられる．成長しつつある子供のために単純に率直に，また，さりげないネルーの生き方や思慮深さも啓発に値する豊かな歴史書だ．

〔大山 聰訳　小B6判　平均305頁　セット価9270円〕

東京文京本郷3　みすず書房　☎03(3814)0131

国際派必携の書
東南アジアを知るシリーズ
インドネシアの事典
第一回配本

石井米雄監修　急速に日本との関係が深まった東南アジア各国の最新情報を満載した実用事典シリーズ。第一回配本のインドネシアの事典は、総項目数一四三一／充実の内容と使い易い構成で多くの人の要望に応える一冊。　＊呈内容見本
●A5判・上製／八、五〇〇円(税込)
●続刊予定
フィリピンの事典(92年1月刊行予定)
タイの事典(92年4月刊行予定)

同朋舎
本社　京都市下京区中堂寺鍵田町2
支社　東京都千代田区神田駿河台2-11-1
フリーダイヤル0120−304081

空前絶後の博物図鑑
ビュフォンの博物誌
荒俣 宏＝監修
ベカエール直美＝訳／今泉忠明ほか＝協力
予約受付中／11月20日刊行予定／定価＝12,360円（税込）

図書館必備！

博物学史の転換期にそびえる巨人ビュフォンの業績を本邦初公開。127巻におよぶ原本に収録された、動・植・鉱物の全図版1123点をオールカラーで復刻。また、生殖をめぐる奇説など、科学史資料としても貴重な論文を抜粋収録。

工作舎　東京都渋谷区松濤2-21-3 〒150
Phone: 03-3465-5251 Fax: 03-3465-5254

絵でわかる。よくわかる。
特装版　シリーズ
絵で見るスポーツ　全18巻
カラー・イラストを駆使して解説する、最新スポーツ技術！

■B5判上製　■平均208ページ
■全18巻　セット定価 50,400円
■好評発売中

BASEBALL MAGAZINE SHA
株式会社ベースボール・マガジン社
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(3238)0181

FMシリーズ　パソコンで見る
物理シミュレーション
★フロッピーディスク付き
吉沢純夫著　4,944円〒412円(税込)
目に見えない現象やわかりにくい現象，実物実験が不可能な場合，パソコンによるシミュレーションが役に立つ．この本は，パソコンをフルに活用して物理が学べるフロッピー付きの本．
■適用機種：富士通・FMR50シリーズ，FM TOWNS

FM系
コンピュータグラフィックス入門
塚本正文・増水紀勝共著　1,854円〒258円(税込)
富士通のパソコン・FMシリーズを対象に，グラフィックの基本的事項とグラフィック・プログラミング技法を平易に解説．

森北出版
〒102 東京都千代田区富士見1-4-11　☎03(3265)8341代表

巌谷小波とドイツ文学
——〈お伽噺〉の源
植田敏郎 著　四六判658頁　定価5200円
小波の一生を決定づけ、その文学世界を培った宝庫にわけいりドイツ文学の影響をさぐる。

宮沢賢治とドイツ文学
——〈心象スケッチ〉の源
植田敏郎 著　四六判380頁　定価2300円
新しい詩を模索し続けた賢治——広範な読書体験にわけいり、賢治研究に新たな光をあてる労作。

〒104 中央区銀座1-9-10
☎03(3561)8679
＊定価は税込

大日本図書

まだ科学が解けない疑問

J・ライ
D・サヴォルド編
福井伸子訳



なぜ夢をみるのか。なぜ女は男より長生きするのか。なぜ涙を流して泣くのか。迷信や俗説、古典的解釈から最新の学説までを縦横無尽に紹介しながら、わかっているようでわからない〈51の疑問〉をていねいに解説するたのしい科学エッセイ集。 2300円

＊価格は消費税込みです。

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12 電話(3255)4501

しぐさの英語表現辞典

小林 祐子 編著

英米の小説や戯曲等にあらわれる動作や表情をあらわす、英語表現を網羅的に収録。身体部位項目48、見出語数約1600、イメージ化を助けるイラスト250点を収録。

四六判／776ページ
定価4300円(本体4175円)

研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3 TEL 03(3288)7777

限りなく広がる知識の世界

創業101年—辞典380点突破！



江戸文化を知る江戸百科！

江戸語辞典

大久保忠国・木下和子編
江戸市民の日常語を中心に、用例を掲げ15000 語を収録。江戸文学、国語学、近世史の研究に広く江戸文化の知識を提供。A 5 判 1300頁 18000円

現代形容詞用法辞典 飛田・浅田著 4500円好評発売中

東京堂出版 〒101 東京都千代田区神田錦町3-7 ☎03(3233)3741 最新辞典目録進呈

●処女航海で氷海に消えた豪華客船の謎と教訓を明らかにする。

SOS タイタニック号

ジャック・ウィノカー編／佐藤亮一訳
新書判／定価1,800円／11月上旬発売

●大西洋無着陸横断飛行の夢に挑んだリンドバーグ。感動の全記録を今ふたたび。

翼よ、あれがパリの灯だ

チャールズ・A・リンドバーグ著／佐藤亮一訳
新書判／定価2,000円／好評発売中

文化の架け橋をめざす 株式会社 恒文社

〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(3238)0181

〈1冊本〉漢和大辞典の決定版!!

12月3日発売



角川大字源

全1巻

B5判／2384頁
発売記念特別定価19,800円
(平成4年12月末日まで)(本体19,223円)
定価25,000円(本体22,330円)

角川書店 東京都千代田区富士見2-13-3 ☎(03)3817-8521(代)

美術書・必備図書目録

ご案内

今日，日本の出版物流通のシステムでは，美術書などの専門書が一般書店店頭に，新刊または常備品として常時在庫されることは，きわめてまれなこととなっています。この基本図書資料は，これまでの東西美術における貴重な研究資料をはじめ，画集，評論集などを厳選して構成された図書館用「必備図書」であります。

カタログのお申し込みは下記へどうぞ！

岩崎美術社・岩波書店・美術出版社

美術書普及会（岩崎美術社内）03-3824-1731

色彩科学事典
日本色彩学会編　定価7004円

図説スポーツ史
寒川恒夫編　定価4944円

絵画・文芸にみるヨーロッパ服飾史
菅原珠子著　定価2884円

21世紀のライフスタイル
三東純子編　定価2678円

図説からだの事典
中野昭一・重田定義編　予価20000円

総合図書目録'92あり、ご請求下さい

＊定価は消費税込みです。

朝倉書店
東京都新宿区新小川町6-29
〒162　☎03—3260—0141

◉東洋史学の巨峰，宮崎史学の集大成

宮崎市定全集
全24巻

〈編集委員〉佐伯富・島田虔次・岩見宏・礪波護
A5判上製函入・平均400頁・各巻月報付

■第1回配本／第14巻…〈10月7日発売〉

雍正帝　定価4800円

〈予約出版〉申込締切＝12月20日

岩波書店
〒101-02東京都千代田区一ツ橋2-5-5
図書館係（加藤）　TEL03-3239-9813

類書を圧倒する超豪華本!
スーパー・イラスト版

恐竜
S&Sツェルカス/他　小畠郁生/監訳

地球環境からみた
恐竜の進化と絶滅の物語

現代恐竜学の権威と世界的に著名なイラスト・レーターたちがリアルによみがえらせる恐竜たちの失われた世界！　図書館必備

好評発売中●定価9800円●内容見本呈

河出書房新社
〒151 東京都渋谷区千駄ケ谷2-32-2　電話03-3404-1201

サイエンスNOW
全12巻【総監修】福井謙一（ノーベル化学賞受賞者）

オールカラーで最先端の科学を知る

好評発売中／既刊6冊

第1巻 広がる宇宙　監修=堀源一郎
第2巻 地球の自然　監修=小林和男
第3巻 環境の危機　監修=石　弘之
第4巻 人体と病気　監修=養老孟司
第7巻 物質の世界　監修=小林俊一
第8巻 資源の利用　監修=遠藤一夫

●定価各2,200円（税込）　A4変型判　毎月1冊刊行

〒102 東京都千代田区三番町5　**平凡社**　振替・東京8-29639☎03-3265-0455

荒俣宏
ファンタスティック12
全12巻完結●セット価24,000円（税別）

昆虫、魚類から、空想の怪物まで。遺跡から地球に至る大パノラマ。17～19世期の図鑑の黄金時代の作品を中心に、驚異の図像を紹介する大博物学図鑑。

■女性アーティストの生涯と作品／第1回／タマラ・ド・レンピッカ・他／10月末日刊行予定

リブロポート
〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2 電話03-3983-6191

新刊

サガ選集　日本アイスランド学会編　9270円
アンデルセンの時代　早野勝巳著　2884円
私の歩んだ道　湯川中間子とともに　中村誠太郎著　1751円
南の島の自然観察　沖縄の身近な生き物と友だちになろう　土屋　誠・宮城康一共編　2987円
発生　プロセスとメカニズム　小林英司・山上健次郎編　3296円
環境教育のすすめ　沼田　眞編　2575円
環境教育論　人間と自然とのかかわり　沼田　眞著　2266円

日本産土壌動物検索図説　青木淳一編　15450円
日本淡水動物プランクトン検索図説　水野寿彦・高橋永治編　15450円

東海大学出版会
〒160 東京都新宿区新宿3-27-4　☎03(3356)1541　内容見本呈